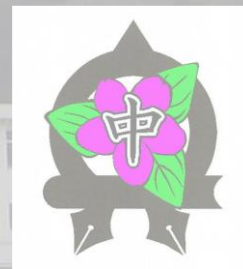


協働



令和6年10月15日発行

奥多摩町立奥多摩中学校

全力で取り組むことの大切さ

副校長 竹澤 大樹

中学校生活では、授業、学校行事、部活動、委員会、クラスの係などさまざまな教育活動があります。私もそうですが、人は好きなことや得意なことは真剣に全力で取り組むことができます。一方、そうでないことは何となく適当に終わらせてしまおうとします。終わらせてしまうことができれば良い方で、逃げてしまうことも少なからずあるのではないのでしょうか。

先日、御来賓や保護者の方々への本校音楽祭のご案内を作成しているとき、私は今まで自分が担任をしたあるクラスの合唱コンクールについてふと思い出しました。そのクラスは音楽が嫌い、歌が苦手という生徒が多く、真剣に練習しようという雰囲気にはなかなか至りませんでした。無理矢理に歌わせることも難しく、担任として思い悩んでいる中、やる気のある生徒中心に実行委員やパートリーダーの決してあきらめない優しい声かけもあり、少しずつ声を出し始め、クラス全体で、真剣に全力で取り組むようになりました。スタートが出遅れたこともあり、入賞こそできませんでしたが、「練習開始当初からの伸び率は一番だった。最高の合唱だった。」と本番直後にクラスに話したことがありました。その後の生徒の感想では、「みんなで歌って楽しかった。」「入賞を逃して悔しい。」「来年は入賞目指して頑張りたい。」とありました。合唱だけではありません。嫌なこと苦手なことでも逃げずに全力で取り組むからこそ楽しさや悔しさ、次への意欲が湧き出てくるのです。そして、それが確実に人を成長させます。

5月に行われた体育大会では、奥中生が全力で競技や係活動に取り組む姿がとても凛々しく、私は今でも鮮明に覚えています。とても感動させられました。これから、音楽祭、修学旅行、スキー教室などいろいろな行事があります。どのような心もちで臨んでも時は流れていきます。必ず終わっていきます。是非とも生徒のみなさんには、すべてにおいて全力で取り組み、自らを高めていって欲しいです。

学校行事だけではありません。部活動、委員会、クラスの係、日々の授業、清掃や当番活動などすべての活動は全力で取り組むことに意味があります。必ず自分にとってプラスになります。3年生の進路に向けての学習もそうです。逃げずに全力で取り組むからこそ楽しさ、つらさ、嬉しさ、悔しさ、達成感、不満感、…いろいろな感情が湧き出てきます。それを体験して一步一步成長していくことこそが多感な時期である中学年代では最も大切なことなのです。



私も文章を書いていて、日々成長し続けるためにもあらゆることに全力で取り組んでいこうと改めて思いました。

10月「人の良いところを見る」～いつもと違う視点から他人を見てその良いところに目を向ける～

生徒の実践	先生の実践	家族の実践
家族の良いところを言う 友達の良いところを探す 苦手な人の良いところを見つける	生徒たちにお互い良いところを話し合わせる 生徒の良い活動をほめる。 その日のクラスの良かったところを学活で伝える	その日にあった良いことを話し合う 人の悪口を言わない 子どもをほめる

出典：スポーツドクター辻秀一著「心の力コーチング～いつも勝てるライフスキルの育て方～」講談社